

多 度 津 町 経 済 動 向 調 査

《第 1 四半期(2019年4-6月) 調査結果》

1. 調査期間 令和元年6月4日～19日

2. 調査対象 会員 4 1 企業に調査票配布 (回収29企業 回収率70.7%)

	製造	建設	卸売	小売	サービス
調査対象	12	9	4	7	9
有効回答	11	5	3	4	6

3. 調査項目 今期(2019.4~6月)を基準に前年同期比、来期予測を今期比にて業況・売上高・採算・仕入単価・従業員・資金繰りの項目について調査。

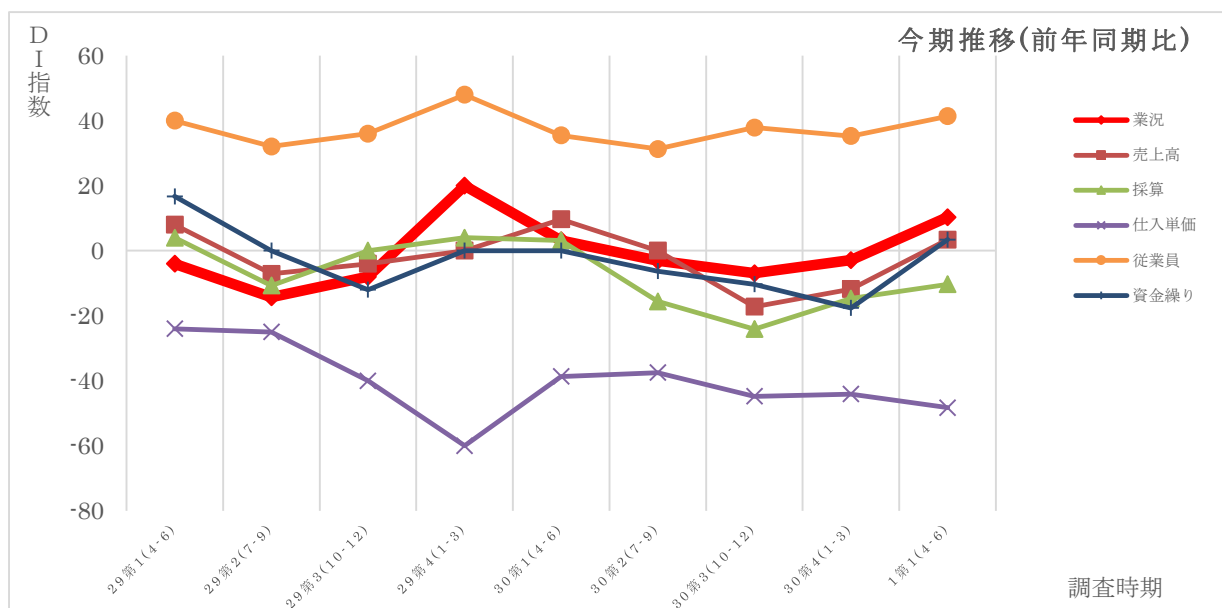
※DI指数は、景況判断状況を表すもので増加・好転などの回答割合から減少、悪化などの回答割合を差し引きし、ゼロを基準としてプラス値で景気の上向き、マイナス値で景気の下向きを表す。

4. 全産業(DI指数分析)

業況は2期連続改善するも、先行き(来期)は悪化を見込む。

業況DI10.3(前期比+13.3^ポ ｲﾄ改善↑)、売上高DI3.4(前期比+15.2^ポ ｲﾄ改善↑)、採算DI▲10.3(前期比+4.5^ポ ｲﾄ改善↑)、仕入単価DI▲48.3(前期比-4.2^ポ ｲﾄ悪化↓)、従業員DI41.4(前期比+6.1^ポ ｲﾄ改善(人手不足感増加)↑)、資金繰りDI3.4(前期比+21.0^ポ ｲﾄ改善↑)。

先行きの見通し(来期予測)の業況DI▲6.9(今期比-17.2^ポ ｲﾄ悪化↓)。売上高DI▲10.3(今期比-13.8^ポ ｲﾄ悪化↓)、採算DI▲17.2(今期比-6.9^ポ ｲﾄ悪化↓)、仕入単価DI-37.9(今期比+10.3^ポ ｲﾄ改善↑)、従業員DI37.9(今期比-3.4^ポ ｲﾄ悪化↓)、資金繰りDI▲3.4(今期比-6.9^ポ ｲﾄ悪化↓)の結果となった。



5. 業種別 (DI指数分析:前期比)

製造業は、業況+9.0ポイント改善↑。売上高+27.4ポイント、仕入単価+9.1ポイント、従業員+9.0ポイント、資金繰り+36.4ポイント改善。採算+0.0ポイント横ばい。

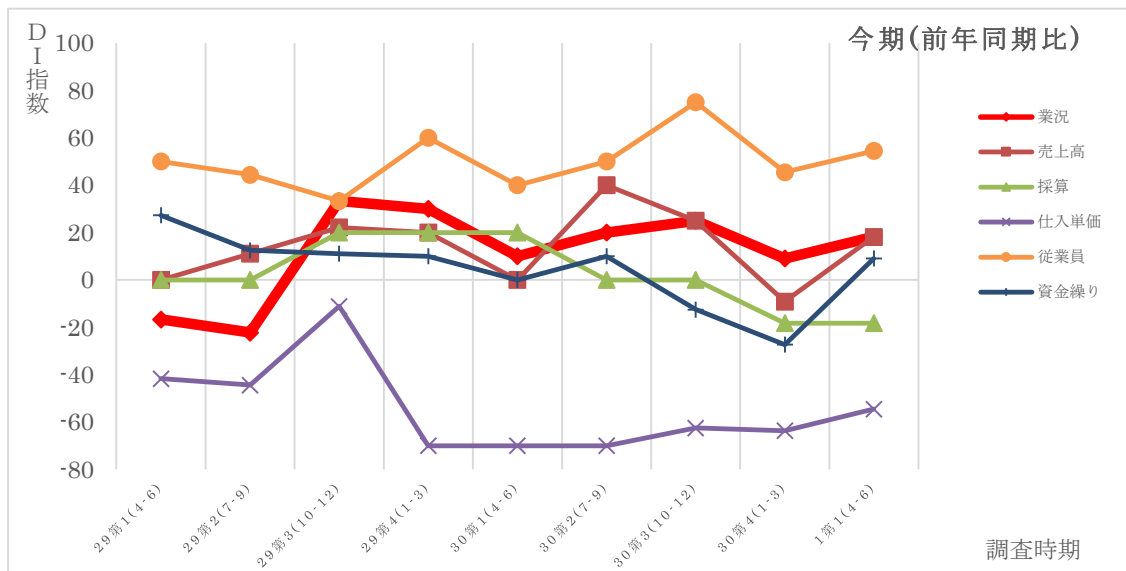
建設業は、業況+12.5ポイント改善↑。売上高-2.5ポイント、採算-2.5ポイント、従業員-10.0ポイント悪化。仕入単価+35.0ポイント、資金繰り+5.0ポイント改善。

卸売業は、業況+66.6ポイント改善↑。売上高+0.0ポイント、従業員+0.0ポイント、資金繰り+0.0ポイント横ばい。採算+66.6ポイント改善。仕入単価-100ポイント悪化。

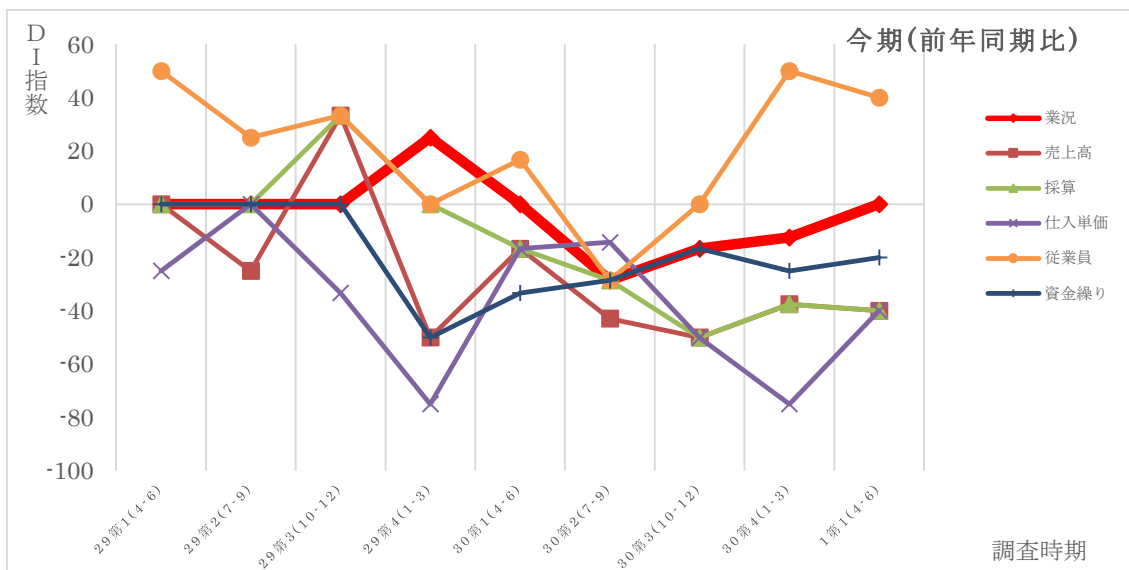
小売業は、業況+8.3ポイント改善↑。採算+8.3ポイント、従業員+33.3ポイント、資金繰り+33.3ポイント改善。売上高-8.3ポイント、仕入単価-41.7ポイント悪化。

サービス業は、業況▲16.7ポイント悪化↓。売上+16.6ポイント改善。採算-33.2ポイント悪化。仕入単価-0.1ポイント、従業員+0.0ポイント、資金繰り+0.1ポイント横ばい。

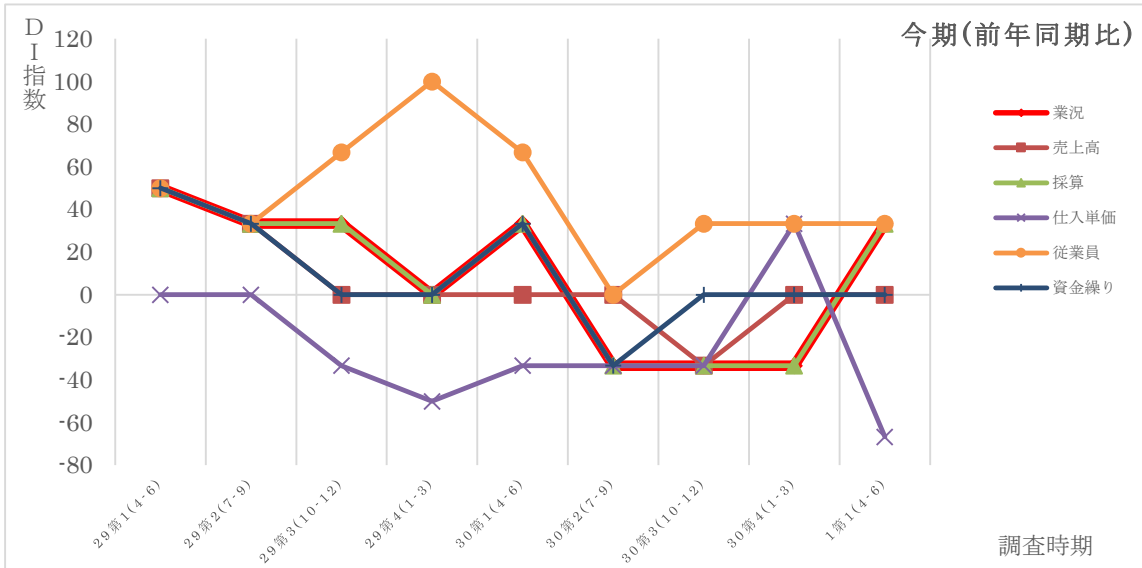
製造業



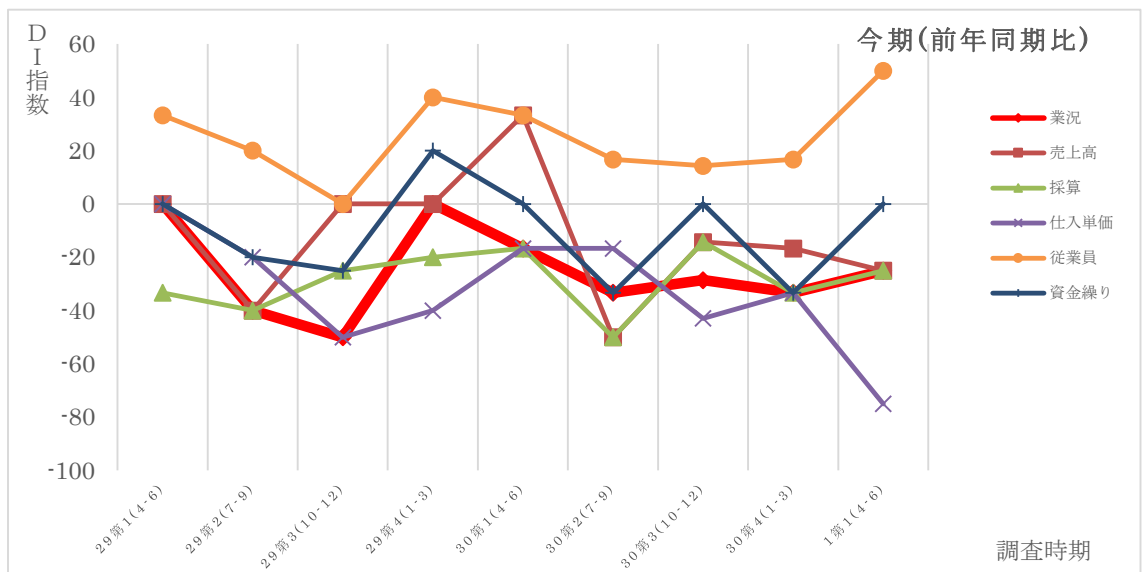
建設業



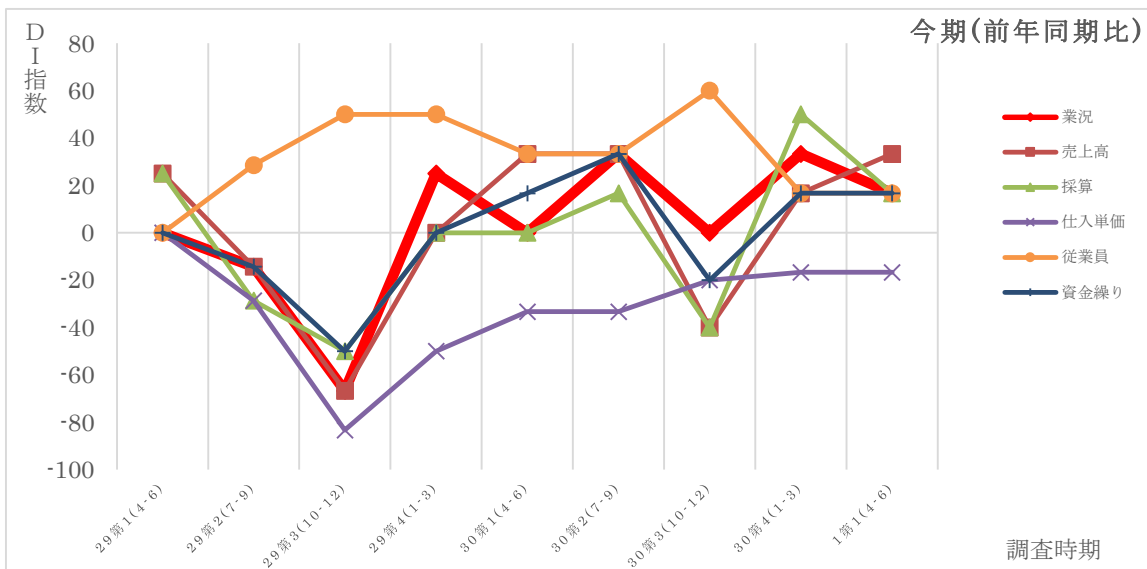
卸売業



小売業



サービス業



【業況感等コメント】

- 業況は昨年秋以降好転したものの、原料、資材の価格高に対して価格転嫁が図れない。また、働き方改革に対して人材不足から改革が十分進まない状況である。 (製造業)
- 人手不足で職安に求人募集しても問い合わせもない状況である。 (建設業)
- 3年先の受注製品について材料の値上がりりが心配される。原価の上昇による採算面が懸念されることから早期対策が求められる。 (製造業)
- 人材確保が難しい。 (小売業)
- 消費税増税の影響が心配だが乗り切るしかない。新しい分野への進出を思案している (製造業)